

# Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局  
東部教育局  
〒680-0846鳥取市扇町21番地  
東教発 R1.6.3 No.156  
<http://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/>

## 「めざす図書館」の具現化に向けて

鳥取市立東中学校



東中学校では、めざす生徒像にある「本に親しむ生徒」を受け、図書館教育重点目標の一つに「生徒が主体的に学ぶ図書館」を位置づけています。その具現化に向けて、学校司書と司書教諭や授業担当者との協働による多様な実践をしています。その一端を紹介します。（令和元年度 子供の読書活動優秀実践校文部科学大臣表彰受賞）

### 図書館を活用した授業実践

#### 1年理科

多様な資料から情報を分析する活動



全校ピピリオバトル  
各学級の  
チャンプと  
チャンプ本

授業に関連した資料や図書のタイムリーな展示を数多く実施。図書館を活用した授業は、年間380時間にもなります。

### 生徒の主体的な読書推進活動

図書委員会を中心に、様々な読書推進活動を行っています。



心の処方箋  
袋に入った本の  
解説を興味津々  
に見入る生徒

東中ベストPOP  
コンテスト  
投票の様子



英語でお話し会  
昼休憩の図書館  
に120人の観客

### 地域・社会とつながる読書活動

#### 3年家庭科

地域ボランティア  
による読み聞  
かせ指導



保育実習での絵  
本の読み聞かせ



2年美術科  
ブックカバー  
を作成  
(地域の書店で  
展示・配布)

学校図書館を核として、生徒が多くの本に親しみ、学習意欲や探究心を高め、主体的に学ぶ機会を様々な形で提供しています。また、学校図書館を活用した授業実践の様子を校内掲示、図書館便り、HP等で積極的に発信しています。新学習指導要領では、学校図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図り、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすことが期待されています。各学校に合わせて、計画的、効果的な利活用を進めていきましょう。

## 心を通じさせて

局長 吉川 誠司

「平成」から「令和」へと時代が移り変わるとともに、子どもたちや私たち教職員自身の生活環境も大きく変化してきています。特に携帯電話やインターネット、そしてスマートフォンと、そのコミュニケーションの手段が飛躍的に発達し、離れた場所にいる人に対し、また不特定多数の人に対して、手軽に物事を伝えることができる便利な時代となりました。しかし、その一方で「伝わっていないなあ」とか「伝わらないなあ」と感じることも多くなったように感じます。情報は提供されているはずなのに、なぜか相手に届いていなかったり、正しく伝わってなかったりすることがあります。そのため、子どもたちの間や保護者、教職員の間などで、コミュニケーションの不具合に起因するトラブルも多くなっているのではないのでしょうか。

「協力して」「連携して」「協働して」とよく言われますが、複数の人や組織が一緒に取り組むためには、やはり心を通わせ思いを共有していくことが不可欠です。心を通わせる努力が双方に必要なのは、いつの時代も変わりありません。このことを省いた形だけの協力や連携は、うまくいかないのです。便利な時代だからこそ、忙しい時だからこそ、相手を思い、互いに心を通じさせることを大切にしていきたいものです。



生徒指導  
コーナー



# 子どもたちの不安や変化を見逃さないために

新年度が始まり、2か月が経ちました。学校やクラス・部活動の雰囲気になじめない、人間関係の難しさが生じるなど、不適応に関する兆候が見られるようになる時期です。これからの見立てや支援を誤ると、夏季休業後の不登校やいじめ、問題行動等にもつながります。日常の何気ない子どもの様子に意識を向け、見直しをしてみましょう。

## 6月ごろにみられる子どもの不安

- ◆クラスの雰囲気や担任の先生になじめない
- ◆新しい友だちができない、集団に入れない
- ◆周りの目が気になる、噂されている気がする
- ◆当番活動等を押付けられる（られそう）
- ◆授業についていけない、テストが近い
- ◆部活動が重荷だ（体力面・雰囲気）



## 子どもから現れるサインの例

- ◆「〇〇先生は、こうだった」「去年のクラスは、△△だった」等、昨年度と比べ、否定的に言う
- ◆休憩時間に、よく教員（担任）のそばに来る、一人で読書をしている、教室を出て他クラスの子と一緒にしようとする
- ◆頻繁にトイレや保健室に行きたがる
- ◆週明けの行き渋りや遅刻等が見られる



問題意識  
をもって  
見立てて  
いますか？

【例1】進んで教員の手伝いをしてくれる子  
A よく気がつくいい子だな・・・。  
B 一緒にいられる友だちがいないのかも？

【例2】マイナス発言が増えてきた子  
A 最近文句が多くなったな。少し厳しい指導が必要だ。  
B 強気な姿勢を見せようとしている？何かトラブルが？

同じ事象に接したとしても、問題意識をもって見立てることで、子どもが抱えている不安に寄り添うことができます。

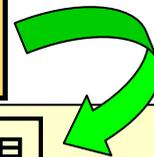


個人で見立てようとすると、誤認識や先入観などによって誤りが起き、また、一人で抱え込み、苦しむことにもなりかねません。複数の目で児童生徒を観察し、互いの情報を擦り合わせるなど、組織的に見立てることが大切です。様々な角度から見る習慣が、見立ての精度を上げることに繋がります。

## 学事コーナー

## 働き方を見直してみませんか

～時間のゆとりは心のゆとり～



現在、学校や子どもたちをとりまく教育環境が多様化、複雑化するとともに、学校に求められる教育課題が増加する中、教職員の時間外業務が常態化しています。

そのような中、昨年度は、教職員の多忙解消及び負担軽減に向け、会議・行事等の削減やノー残業デーに取り組みました。その結果、平成30年度における月一人当たりの時間外業務時間数は、平成29年度比10%削減をおおむね達成し、全体としては一定の時間削減が図られています。

心身の健康を保持し、一人一人の子どもたちの指導にゆとりをもって専念できるよう、自らの働き方を見直してみましょう。

【時間外業務削減目標】（平成29年度比）

年度	H30	R1	R2
月一人当たりの時間外業務	10%減	15%減	25%減

## チェック項目

- 業務カイゼンについて、他人任せにせず、自分にできることを実践している。
- 退勤予定時刻を決めている。
- 机上等の整理整頓をしている。
- 仕事に優先順位を設定し、見通しをもって業務にあたっている。
- 作成した教材や定型文書の雛形等を分類し、共有している。
- 部活動休養日、活動時間遵守を徹底している。（中学校・義務教育学校）

自ら「変革」

新しい「令和」の時代に向けた持続可能な指導・運営体制のため、各学校における働き方改革を推進していく必要があります。学校全体として、また、一人一人の教員として、これまでの働き方や生活の質を見直すことで、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことが求められています。限られた人員、予算、時間の中で、取り組むべきことを精選し、学校業務カイゼンを進めていきましょう。